

建築と社会

4

構造 号

1956年4月号 目次

特集

- 竹山・浜口論争について..... 8
アンケート..... 9
現在建築と不安感に関し浜口君の反論を読む

竹山謙三郎..... 15

現代建築の不安と危険..... 浜口 隆一..... 18

構造とデザイン座談会..... 20

古典建築の秩序と構造..... 元良 勲..... 26

構造の秩序のために..... 横尾 義貫..... 28

ライトゲージ構造について..... 棚橋 諒..... 31

技術講座

プレストレストコンクリートの建築への応用

坂静雄・六車熙・前田米穂..... 41

日本建築学会創立70周年記念事業..... 60

会合便り..... 61

広告索引..... 64

建築と社会
第37集・第4号
売価1部100円・送料共
昭和31年4月20日印刷
昭和31年4月25日発行
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3-3 朝日ビル
電話 北浜 1334~9 番
振替口座 大阪 39975 番
編集発行人 沖田 誠一
印刷所 株式会社 研文社
大阪市北区堂山町66
電話 2091~3 番
印刷者 網野 栄

(3)

昭和31年1月12日

木曜日

現代建築と不安感

立札が立っているだろうか？

竹山 謙三郎



最近よくよく完成するいわゆる現代建築について、よくいろいろの方から「あの大きなガラス窓は、一体地震や火事に大丈夫なものでしょうか」と聞かれる。商売柄この返事には「一番困るのがあるが、ある建築評論家は次のような意味のことを述べている。

「一般の人が地震や暴風や爆弾に對してあの大きなガラス窓を心配する気持は、現代の持つ不安感情をそのまま反映しているもので、軽快な明るさと不安をはらんだガラスの建築は具象的な現代の象徴だ」として「現代の芸術には不安が一つの要素になっている。音楽でも絵画でも……そして建築でもそれに違いない。不安な感情が伴わないものは、なにか現代人の気持から離れてしまう……」

芸

「ジェットコースター」というものがある。車が急傾斜の軌道の土を登ったり降ったりする仕掛けで東京の後楽園にあるあれである。確かに不安感十分で現代人の気持ちにピッタリするものだが、あれは転落しないように万全の設計がしてあるからよいので、この信頼感があればこそ不安感も減るというものである。もし「この車は落ちる危険もあります」という立札があったらたれも乗る人はいない。ところが現代建築には「一体立札が立っているだろうか？」

昨年十月、新潟に大火があった。平均風速二〇以上の暴風下ではあったが、意外に多数の鉄筋コンクリート造りが焼けたので、特に専門家の間で問題となったのである。横なぐりに吹飛ばされて来た火の粉が熱風でヒジの入りに易く燃えた窓ガラスを打ち破って発火した立札が、かなり風下の不燃建築

がかたまっている区域にも延焼した。これらの例を見ると、窓の大きい建物は当然危険率も大きいわけであって、周囲が木造で囲まれている総ガラス張りの現代建築は火の玉の中に裸で立っているようなものだから問題外として、不燃建築の多い地域でも決して安全とはいえない。というわけで、やたらに窓を大きくしようという現代建築の傾向に對して、一方では強い批判が行われている。

次にあの大きな窓ガラスは地震に對してどうであろうか。現代建築はその一つの特徴としてその骨組が全体的にきまきまになっている。もちろん鉄骨その他を十分駆使しているから、地震で崩れるようなことは絶対にないけれども、普通設計の建物に較べて一般に地震に對する揺れが大きいと考えられている。従って大地震の場合には窓ガラスが大きいだけに、これが壊れて落ちる危険がないでもない。

い。専門家の中には地震のときは「シャ」した現代建築の側からは逃げた方がよいとさえいっている。原爆や水爆に對する心配まですると、これはきりがなが、地震や火事に對しては、以上のようなわけで、一般の人の不安は遺憾ながら根拠のある不安なのである。立札が立て忘れているといつたところである。なお暖房その他管理維持費がひどく高つくといふような不満を耳にすると、現代建築にも手放してはれ込むわけには行かない。

以上私は現代建築について少し皆様に心配をかけ過ぎたかも知れない。現代建築といつても何も今まで話題としていたガラス窓の大きいのはかりをいうのではなく、地味で目立たないけれども、著実に積み上げた不安感のない建物も多い。ここで採り上げた新スタイルの現代建築も、たいたすに物珍らしさを追っているわけではなく、例えば建築の工業生産化というような将来の大目標をねらった貴重なテスト・ハウスともいふべきものも多い。建物を試験合として良いかどうかは別の問題として、ともかくこのように勇敢

に技術を切り拓いて行く建築家の意図に對しては、もくろみ敬服を払うにやぶさかではないが、ただその欠陥を衝いた世間の心配に對して「不安は現代の象徴」などといつて芸術家振る態度ありとすれば、まさに建築家の自殺行為である。建築は飾りたのみに載せてながめるガラス細工の芸術品ではないからである。

(建設省建築研究所長)